

Cグループ

～安心安全なまちをつくる。産業・連携・福祉～



○まずは生きる場が必要なので、今は復旧を急ぎ、生業を戻して店を再開させる「産業の立ち上げ」が大事です。そのためには行政やボランティアの手助けなどあらゆる「連携」をしながら進めることも必要です。そして、安心安全を担保する「福祉の町」を目指します。

○南三陸の特徴は、海と山と里があり、多くの住民が漁業や農業、商業などを兼業している暮らし方です。この私たちの暮らしを、都会の人の教育に使ってはどうか。町全体を学校として、自然学校や農業体験の場などとして、南三陸のライフステージを紹介します。そこには世界中から人々が学びに来るでしょう。

○今、過去の南三陸町(志津川)がどんな町だったかの記憶を1軒1軒残すプロジェクトに取り組んでいます。未来を考えるには、こういった過去の記憶を手繰り、互いに語る場所からはじめることが大事なのではないでしょうか。

○将来の南三陸の絵を書きました。特産のタコをまちのシンボルにまちづくりを進めることを考えました。高台にはタコの形をイメージしたビルを建て観光スポットにします。ビルの中には、売店、宿泊施設、レストラン、手作り体験教室などがあり、南三陸でしか食べられないもの、地域のできないことをすることで、世界中から観光や学習で人が集まり、交流するまちにできたらと考えています。

【会議のまとめ】宮城大学 風見 正三 教授  
～次回はシンボル・プロジェクト化に。「つながり」の重視が共通の思い～



町が復興計画にこの町民会議が提言するシンボル・プロジェクトを入れたいと思って準備していることは素晴らしいです。

各グループを振り返ると、Aグループは、地域資源の連携がテーマでした。Cグループは記憶を繋ぐことや、地域のつながりを活かすということに注目しました。Bグループではその基盤となるコミュニティをつなごうとしており、共通しているのは「つながり」という言葉ですね。南三陸のようなコミュニティの豊かな町がどのように復興していくのかは日本にとっての希望にもなると思います。

地元の資源をつなぐことで、コミュニティのつながりをベースにした強い産業ができれば、新しい人や外の人がかかるようになると思いますし、美しい町になるのではないかと思います。

次回 震災復興町民会議(意見交換会)の予定

日時:8月19日(金)19:00～ 場所:沼田ふれあいセンター

(会場の都合により傍聴できません。)

第3回  
活動報告

第3回  
活動報告



南三陸町震災復興町民会議  
かわら版(第三号)

～復興のシンボルプロジェクトを議論～

第3回目の会議では、これまでのアイデアを掘り下げたり、新たな視点を加えることで、復興計画のシンボル・プロジェクトとする事業について話し合いました。

Aグループは「地域資産の循環による復興」、Bグループは「地域コミュニティの再建」、Cグループは「安全・安心なまちづくり」など、特色のある事業の提案がありました。

次回は全体での意見交換会を行い、思いを共有しながら、未来をともに考える絆を深める予定です。

プログラム

日時:平成23年8月10日(水) 午後2時～4時30分  
場所:入谷公民館 会議室

14:00	1 開会
	2 会長挨拶
	3 役場からの情報提供 ・地域懇談会の振り返り ・復興まちづくりに関する意向調査結果
	4 本日の進め方
	5 グループ討議
	6 グループごとの結果発表
	7 全体討議 ・グループ別振り返り
	8 会長によるまとめ
	9 閉会
16:30	



## 会長挨拶:小野寺 寛 氏

### ～しっかりした議論を進める～

明日で大震災から5ヶ月を迎えますが、町民一人ひとり、それぞれの思いで毎日を過ごしています。

地域では、まず毎日の生活をどう送るのかで精一杯の日々を送っていますが、そのなかでも前を向いて進まなければなりません。

未来を考えることは、大変困難なことではありますが、我々の力の及ぶ限りこの責務を果たそうと思っています。



## 情報提供 ～地域懇談会、復興まちづくりに関する意向調査の実施状況に

復興計画の策定にあたり、町民の皆様から広く意見等をいただくために実施した「地域懇談会」及び「復興まちづくりに関する意向調査」の実施状況について、町から情報提供がありました。

### 【地域懇談会】

○7月25日から31日までの7日間、町内のほか、町外の避難所など、延べ23会場で開催し、約500名の方が参加。

○懇談会では、特に町が計画案で示している「住まいは高台に」という考え方についてご意見を伺ったところ、今後、移転場所の選定や、移転事業を進めるに当たって町民の意向をしっかり確認しながら丁寧に進めるべきといった意見等があった一方、ほとんどの参加者からは賛同が得られた。

### 【復興まちづくりに関する意向調査】

○調査は、全5,327世帯を対象に実施。3,316世帯から回収され、回収率は62.2%。

○おもに津波で家を失った方のうち、今後の住まいの場所で「震災前の敷地」を選んだ方は「約9%」。また津波で家を失った方に自然災害に強いまちづくりで重要なことについて聞いたところ「約75%」が「住まいの高所への配置」を選んでおり、浸水した土地ではなく、安全な高台に住みたい意向が伺えました。

## 【本日の進め方】 宮城大学 古川 部長

### ～住民目線で特色あるプロジェクトを～

今日で3回目の議論になります。この会議の目標は、9月中までに策定される「震災復興計画」に反映させられるように提言をすることです。今日はそれをできるだけ具体的にしていきたいと思ひます。

提言の中身は、震災復興計画に入れるための「シンボル・プロジェクト」を描くことです。

シンボル・プロジェクトとは、まちの復興の象徴であったり、目玉となるプロジェクトのことです。必ずしも、大きな建物や公園をつくるのではなく、南三陸町の特色や地域資源を活かしたものを考えてもらいたいと思ひます。



## A グループ

### ～地域内での循環(住まい・働く・道路)～

○林業、漁業、商業、農業、観光など、あらゆる資源を「地域内で循環」させることが大事だと考えています。

地域資源の循環について「地元産の木材を使った公営住宅建設」を提案します。具体的には2年間で2,000戸を建設することにより約6,000人分の住居となります。また、これにより約10万人の雇用が生まれると試算しています。

○今回の大津波で私たちはたくさんのものを失いましたが、「豊かな海」は残りました。これまでの発想を転換し、「海」を様々な地域資源と結びつけて活用することが大事です。

○今回、多くの方々からの支援を受けましたが、いち早く復興することこそが、恩返しです。

○道路は「命を守ロード」として防災だけでなく、災害時の救援ルートとしても重要です。三陸道の早期開通と、国道398号と45号は浸水地域を迂回するようなルート変更を希望します。

○公立病院と個人病院の連携による地域に根ざした病院づくりを目指そうと考えました。

○当面は、仮設店舗などによる地産地消を進めていければと考えております。



## B グループ

### ～コミュニティ再建のためのヒアリング調査～

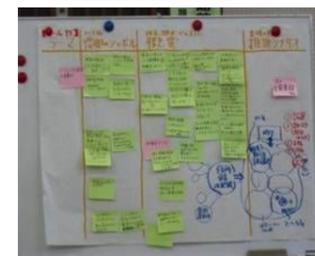
○現在、特に町外の避難所や民間アパートなどにいる町民の一番の悩みは、役場から情報が届かず、自分たちの将来がどうなるのか分からなくて不安であるということです。南三陸に戻りたいと思っている方の気持ちを無駄にしないためにも、もう一度絆を再生することが重要です。

○今回の津波で何を失って、何を得て、どういう考えに至ったのか。これが将来のまちづくりにあたっての根本的な考えになると思っています。そのためには、従来のコミュニティ単位でじっくりと話し合うことが大事ですが、現在は仮設住宅や遠隔地などに離れ離れになっており、まずは集まることが重要です。町外に避難している人も含めた住所録を作ることで人が繋がっていくと考えます。

○復興自治協議会のような住民組織をつくることも考えました。町から支援を受けられる組織がなければ、住民が願うような町を再建するのは難しいでしょう。

○仮設住宅のコミュニティでも、今後の数年間をどう暮らしていくかは重要です。住民と地域の行政が話し合っていく会議体を作り、どう関係をもっていくか、話しあえる場をつくることが重要と考えます。

○忙しいため毎回の会議に出席するのは大変ですが、次回は我々も「グループのメンバー全員が参加」することを目標とします。



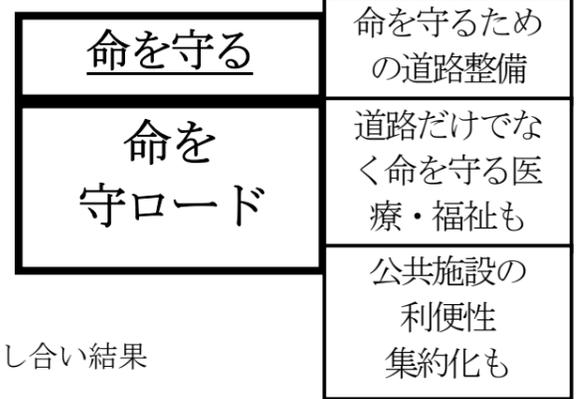
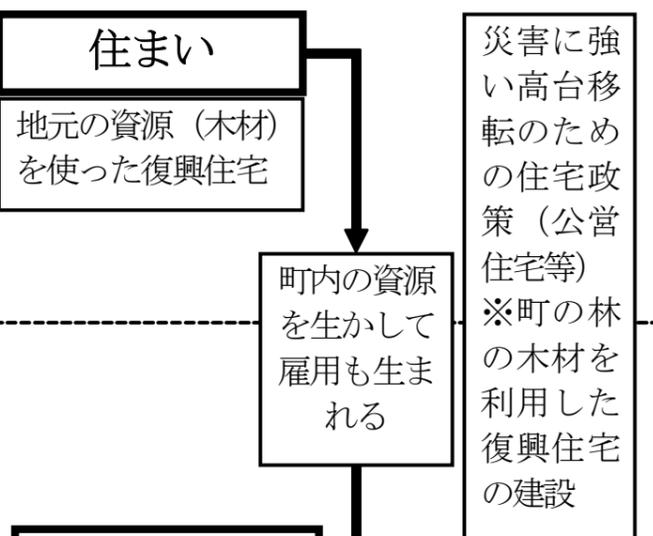
Aグループ

テーマ

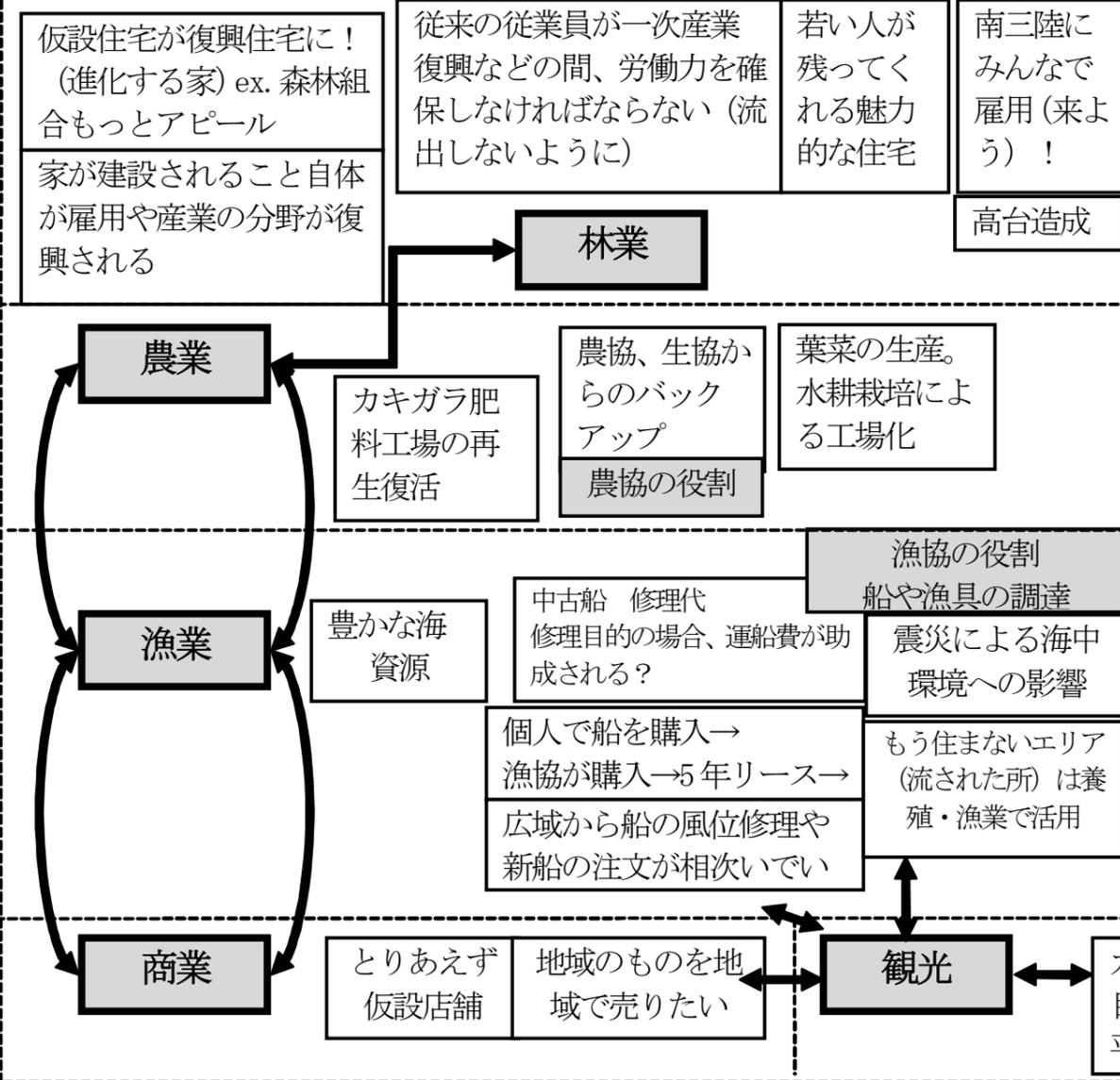
持続的な地域内での循環

町民全体へまんべんなく循環

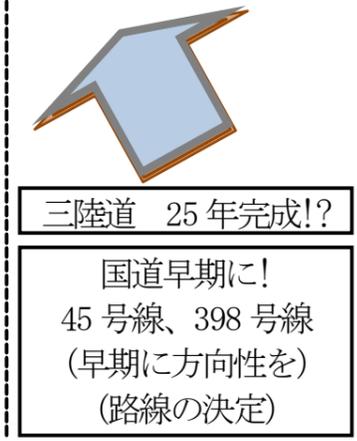
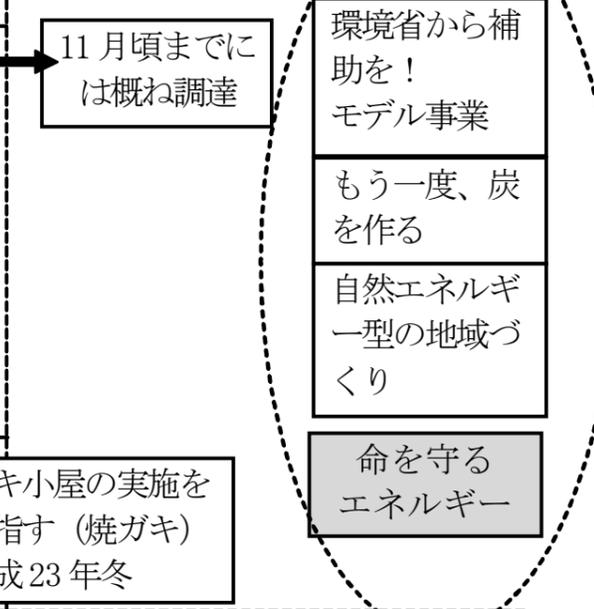
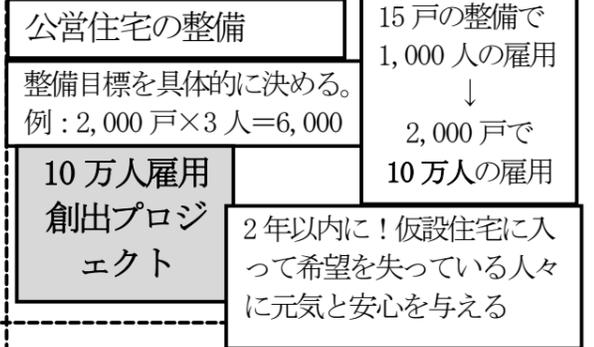
タイトル  
復興のシンボル



概要  
(何を、誰が、どのように)

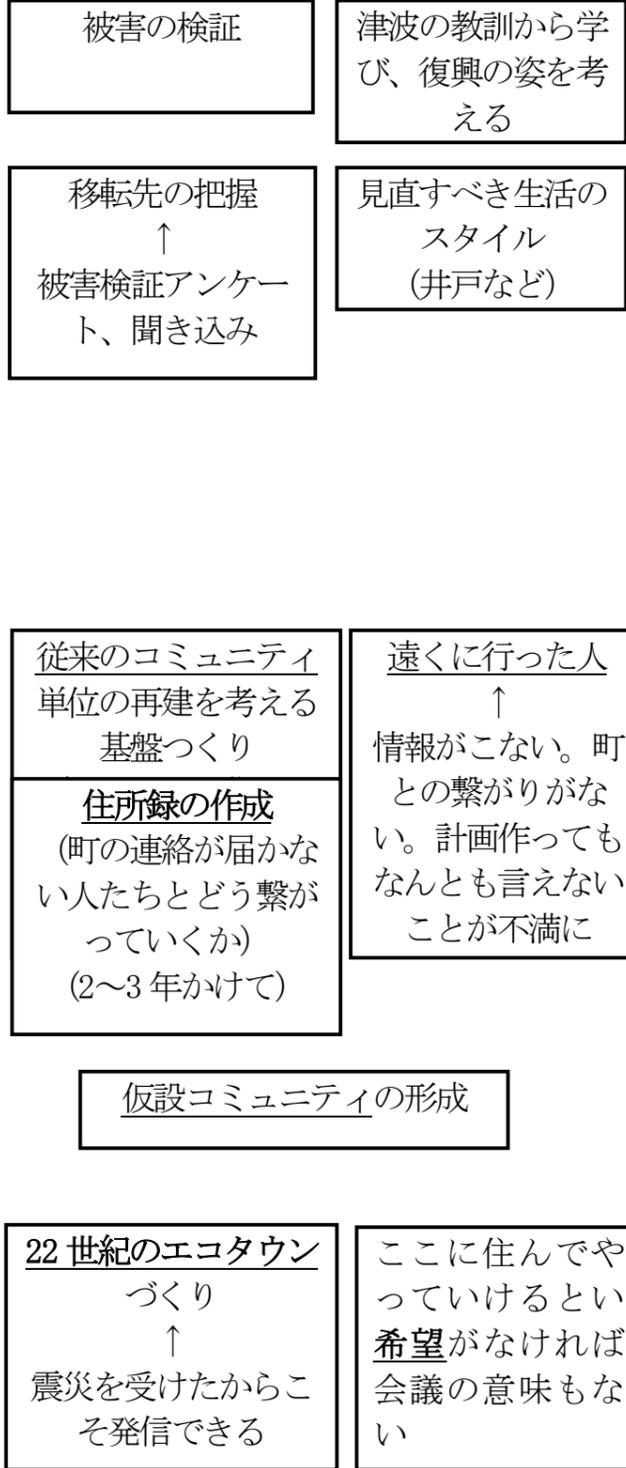


(実現の手立て)  
推進シナリオ

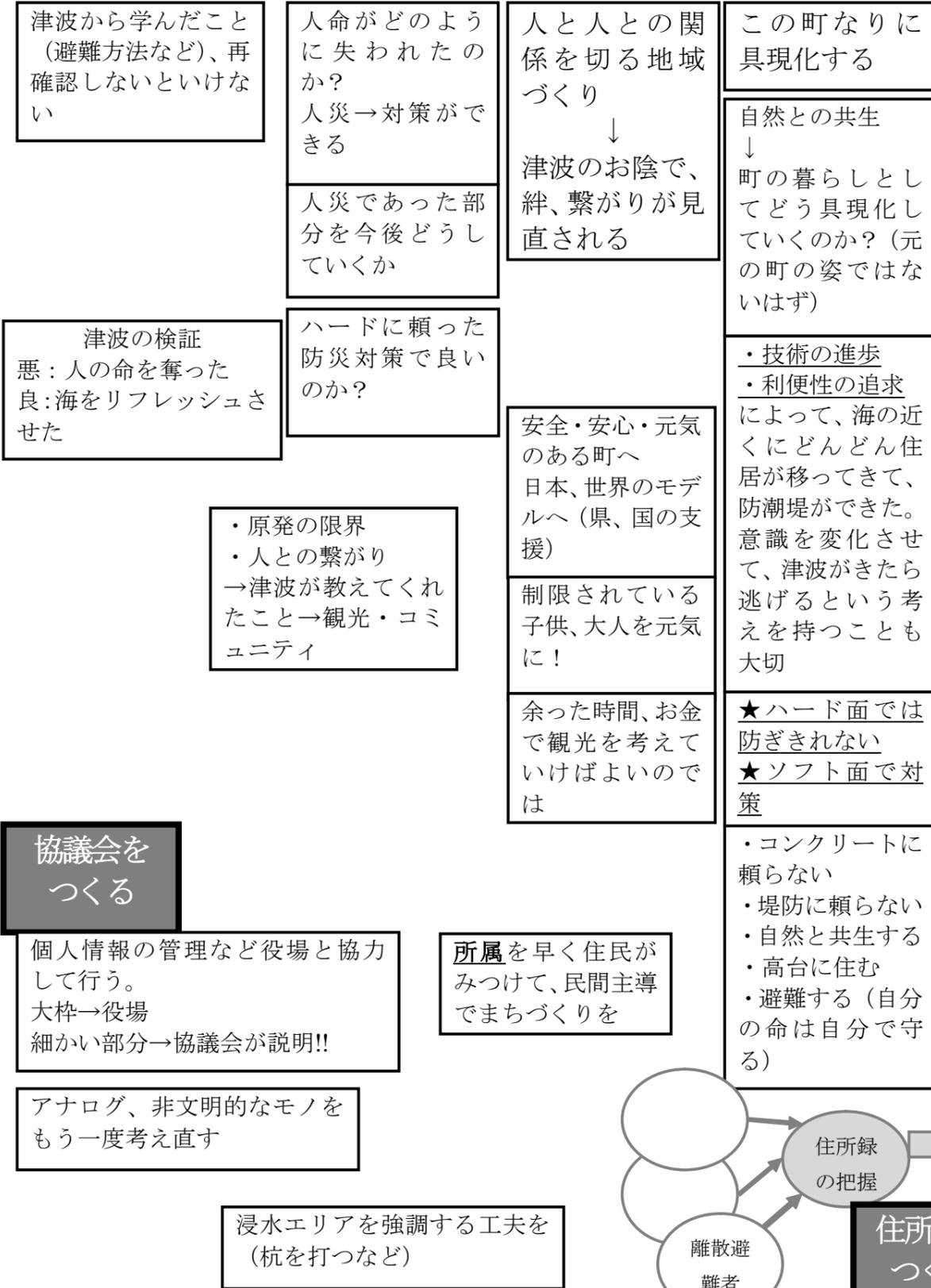


(資料) 各グループの話し合い結果

タイトル  
復興のシンボル



概要  
(何を、誰が、どのように)



(実現の手立て)  
推進シナリオ

次は全員集合する

テーマ

豊かな町  
人口、資産の維持、  
仕事場の確保

地域の可能性を使い倒す。  
世界一有名な町の町づくりプロジェクト  
関係した全ての人達と共に

誰もが住みよい町づくり

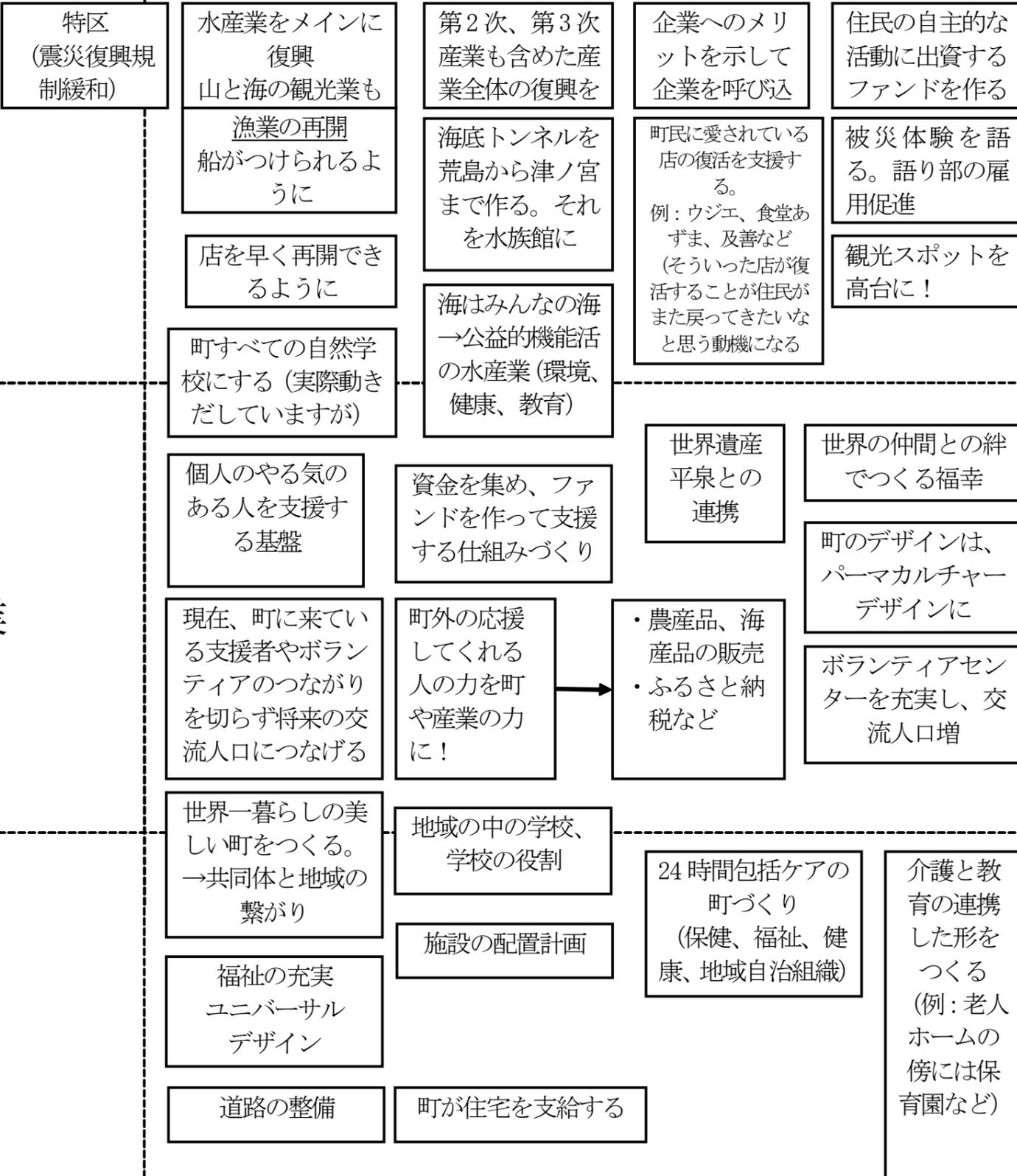
タイトル  
復興のシンボル

産業  
立上げ

連携事業

福祉の町

概要  
(何を、誰が、どのように)



(実現の手立て)  
推進シナリオ

